

### 1. 公開授業実践に向けての過程

今回、新学習指導要領における新しい必修科目である「言語文化」の「書くこと」の領域で単元案を計画した。本校の生徒達が「書く」ということを苦手をしているという現状や新学習指導要領が「思考・表現」にフォーカスしていることの重要性を踏まえて、単元で育成する資質・能力を「書くこと」の領域で設定した。

授業案の計画においては、『新学習指導要領を踏まえた授業づくり（明治書院）』などの書籍をもとにして型を作った。単元名は「時候・天文の季語をテーマにして季節のエッセイを書く（言語文化）」。今回は教科書教材と結びつけて単元案を計画する形だったので、教科書採録の『徒然草』や『枕草子 第一段』の文章を使った。随筆を読ませ、作者の視点を意識して読むことで、当たり前だと考えていたことが、違う視点を持つことで変わっていくことを押さえさせた。読解を踏まえて、古文の随筆と現代のエッセイを読ませ、書くためにどんな材料を集めていくかを考えさせた（今回の単元で重視しているポイント。書くために何をどのように集めていくかを学ばせたい）。言語文化での「書くこと」における目標は二つある。本単元で目標とした「書くこと（1）ア」に関しては、書くためにどんな材料を集めれば良いのか、という言い換えができると考えた。そこで、授業を行う際に重点としたのが「ワークシート」の作成である。授業者が授業の中で計画的に情報を提示することで書く「資質・能力」が身についたということを少しでも実感させることができるのではないかと狙いで、授業者がどんな工夫をできるかということを示すために作成した。以上のような過程を経て単元案を作成した。

### 2. 公開授業の研究協議において、出た意見やその後考えたこと

公開授業後の研究協議においては、「単元の目標」の達成はある程度できたのではないかと意見をいただいた。言語文化の目標にある「書くこと（1）ア」に関しては、書く材料を集めて、それを表現に合わせて適切に使うことが出来るというところまでを達成したラインとして考えれば、生徒達が表現した「エッセイ」は素晴らしい作品が多かった。ここで問題がある。「素晴らしい」というのはなにをもって素晴らしいと言えるのか、という部分である。研究協議の中で「評価」という点が話題となった。生徒達が表現したものをどのように評価していくのかという点である。本授業においては「ルーブリック評価表」を用いたが、エッセイに対しての評価規準はあるが、授業においてその評価表が機能していたかどうかという点で、もっと別の形が考えられるのではという指摘を受けた。単元を計画する上で、「目標」と「評価」はセットになっている。今後、授業においてはパフォーマンスを評価するという場面が多くなると考えられる。指導と評価の一体化という話題はこれまでもあったが、まだ議論すべき部分は多くあるように感じた。今後の授業でも単元において設定した目標、その目標を達成するためにどのような授業スタイルを選んでいくか、そして評価をどうしていくのかを常に念頭に置いて授業改善に努めていきたいと思う。

### 3. 全体を終えての感想

『主体的・対話的で深い学び』の授業実践をする上で気づいたことをまとめておきたい。

- 単元計画を立てる際、単元目標は新学習指導要領の文言をそのまま使用して良い。
- 「単元の目標」→「評価方法」→「指導計画」の逆向き設計での授業スタイルの確立
- 教科書教材とそれ以外の文章との結びつきをつくる（「つなげる」作業。時間を費やすことになるかもしれないがレガシーとして残っていくはず）
- 他教科との関連（特に総合的探究の時間。国語で身につけた資質・能力が最大限活かされる場であると思う。逆に、総合的探究の時間で身につけたものも国語の時間につながるはず。）
- 授業年間計画の見直し（教科全体でどのような形で資質・能力を身につけさせるかを考える）
- 校内、県下での情報の共有化（オンライン上で共有することが可能）

中間テストも終わり、ようやく一段落できると思ったら、実力テストや進研模試が続いていきますね。忙しい日々が続いていきます。体調管理にも気をつけながら毎日を充実したものにして欲しいと思います。そういえば、最近は朝も肌寒くなり、冷涼な秋気を感じますね。皆さんは普段からあまり変化がない学校生活を送っているのあまり気づかないかもしれませんが、実は身の回りにはたくさんの変化が起こっています。社会や流りの文化、自分自身も変化しています。先ほど述べた「季節」の変化もそうです。今回の授業では新たな視点から「季節」というものを捉え直してみたいと思います。いつも言っている「視野を拓ける」ということを意識して取り組んでいきましょう。

○まず、「秋」という言葉から連想できる言葉を挙げてください。

○次に、「春夏冬」という季節それぞれで連想できる言葉を挙げてください。

○グループで共有化して、友人が挙げた、考えもしなかった言葉を書き残しておこう。

学習プリント①で「季節」について皆さんの現段階での視点を確認しました。言葉から「季節」というものを感じるというのは、考えてみると不思議なことですね。普段気にもとめてない言葉が「秋」を感じさせたり、目の前にはないのに「匂い」まで実感させてくれたりすることもあります。面白いです。ところで、今を生きている私たちの「季節感」というものがありますね。では、昔の人たちの感覚はどうだったのか。昔の人達と直接話をすることはできませんが、当時の文章を読むことで知ることができるかもしれません。今回は、随筆（今で言うエッセイ）を読み、昔の人の四季感覚を知ること、君たちの「季節」を感じ取る目をさらに深めていきましょう。

○「枕草子」第一段を読んで、「季節」について知ったこと、感じたことを書いてみよう。

○次に、資料プリント②を読んで先ほどと考えがどのように変わったか書いてみよう。

どうですか？当時の常識、四季の捉え方が分かると文章の読み方も変わりますし、物事を見る視点が増えますよね（もしかしたらこうかも…という見方）。では、最後に、「徒然草」第十九段と百三十七段を読んで、兼好法師の四季の捉え方を知ろう。

○「徒然草」第十九段と百三十七段を読んで、季節の捉え方について考えたこと、気づいたことをまとめよう。

当時の人々の「季節」に対する観点を知ることが出来たところで、今回は皆さんにも新たな「季節」の捉え方を考えて欲しいと思います。「季語」を知り、学んだ「季語」を使って「季節」についてのエッセイを書いてください。清少納言や兼好法師のように新しい季節の捉え方を「季語」を通して皆さんに紹介してみましよう。さて、書くためには材料集めが大切です。「季語」を知るために、「歳時記」を使って調べてみましょう。紹介したい「季語」を3つ選んで、グループ内で紹介し合ってください。

○やることの流れ

- ① 「歳時記」を見て、紹介したいと思った時候・天文の季語を探す。
- ② 選んだ季語を「」の形でまとめる。

季語

季節（

）

説明

この季語を選んだ理由

- ③ 4人組のグループで季語を紹介し合う。
- ④ グループの中で出た季語それぞれから思い浮かぶもの（季節や状況、雰囲気、体験）を付箋紙に書く。
- ⑤ 付箋紙を季語についてまとめた紙に貼り付ける。
- ⑥ 付箋紙で貼られた用紙をもとに季節のエッセイを書く。

季語

季節（

）

説明

この季語を選んだ理由

季語

季節（

）

説明

この季語を選んだ理由

季語

季節（

）

説明

この季語を選んだ理由

グループ内で「季語」について知ることができましたか？それぞれの観点で挙げられたものなのでその人の視点から見た季節観というものを学ぶことができたのではないかと思います。では、出てきたものをもとにしてさっそくエッセイを書いていきたいと思えます。書く前の準備をしたちと思えます。思いついたことを書いていくやり方もありますが、書くためにどんな準備をして書くのかということも大切です。頑張りましょう！

○『枕草子』第一段、『徒然草』第十九段・百三十七段を読んで、清少納言と兼好法師それぞれの視点、自然観、四季観をまとめてみよう。また、表現として良いと思う点をまとめてみよう。

○自分の体験・見聞・感想をまとめていこう。

- ①いつ（早朝、朝、午前、昼、午後、夕方、夜、深夜など）
- ②どのような所なのか（自分の部屋、自宅、教室、グラウンド、学校、通学路、旅行、観光地、小林的どこかなど）
- ③誰がいるのか、何があるのか（自分、家族の誰か、友人、恋人、先輩、お店の人など。動植物、ペットなど）
- ④何をしているのか、どんな様子か（日常生活、学習、部活、趣味など。五感で感じられる情景（視、聴、触、味、嗅）、肌を感じられるものなど）
- ⑤どのように感じられるのか。（喜び、悲しみ、憂い、寂寞、感動、快楽、満足、安心、好意、愛など）

○構成を考えていこう。『枕草子』や『徒然草』『資料プリント②』を参考にしながら、伝えたいことが明確に伝わるように工夫しよう。工夫したポイントを箇条書きにして残しておこう。

○表現の仕方を工夫しよう。辞書、類語辞典、インターネットを活用して、情景や心情にふさわしい語句を使って書いてみよう。擬音語・擬態語、比喩なども使ってみよう。調べて言葉は残しておこう。



エッセイを書く活動はどうでしたか？大変だったと思いますが、皆さんの「季節」の捉え方を改めて見つめ直す良い機会になったのではないかと思います。さて、これからグループ内での発表とグループの代表者を決めて全体発表をしていきたいと思えます。評価するポイントを「評価ルーブリック」という形で示しておきますのでそれを参考に評価してください。他に良いと思った点があれば、新たに評価項目を付け足しても構いません。この活動を通して、皆さんの季節に対する見方がより広がってくれると嬉しいですね。

【評価ルーブリック】 ←

評価ルーブリック			
	A	B	C
構成・要素	上の①～③の条件が全て入っている。	上の①～③の条件が2つ入っている。	上の①～③の条件が1つ入っている。
叙述	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5W1Hを上手く使って場面をイメージしやすいように書いている。</li> <li>・擬音語・擬態語や比喩などを使っている。</li> <li>・その時の感情を表現している。</li> <li>・季節に対してのその人の感覚が伝わってくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5W1Hで表現しているが、場面をイメージしにくい。</li> <li>・擬音語・擬態語や比喩などを使っている。</li> <li>・その時の感情が書かれていない。</li> <li>・季節に対してのその人の感覚が伝わってくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5W1Hを使っていない。</li> <li>・擬音語・擬態語や比喩などを使っていない。</li> <li>・その時の感情を表現していない。</li> <li>・季節に対してのその人の感覚が書かれていない。</li> </ul>
表記・発声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤字・脱字がない。</li> <li>・声の大きさ等が適切で、内容に合わせた抑揚がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤字・脱字が2カ所以内。</li> <li>・声の大きさ等がほぼ適切で、内容に合わせた抑揚も概ね感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤字・脱字が3カ所以上。</li> <li>・声の大きさや内容に合わせた抑揚等に改善が求められる。</li> </ul>

【条件】

- ①エッセイに書かれた話題と季語が合致している。
- ②エッセイに書かれた話題によって、新たな季節観が伝わってくる。
- ③筆者の最も表現したいことが、印象的に書かれている。



発表お疲れ様でした。これまでの活動を通して皆さんの「季節」に対する捉え方が変容していれば良い学びができたということだと思えます。新たな視点を得て、またこれからの気づきにつなげて欲しいと思います。最後に、「季節」について考えたこと、気づいたことをまとめておきましょう。

○「季節」について考えたこと、気づいたこと

最初は（ ）という季節に対して、

だったが、今回の授業全体を通じて、

というように感じ方（捉え方）が変わった。

教科担コメント